

仙台湾陸棚堆積物への津波の影響

Influence of the 2011 Tohoku tsunami to the surface sediments on the Sendai shelf

池原 研^{1*}

Ken Ikehara^{1*}

¹ 産業技術総合研究所地質情報研究部門

¹ Geological Survey of Japan, AIST

2011年東北地方太平洋沖地震による津波が仙台湾陸棚の海底にどのような影響を与えたかを把握するため、仙台湾内側・中部陸棚において表層堆積物の採取を行った。地震前のデータと比較すると、数地点で最表層に泥の堆積が起こっていることがわかった。津波により巻き上げられて再懸濁した陸棚の泥質堆積物が堆積したものと推定される。一方、中部から南部中部陸棚に分布する砂質堆積物では粒径や堆積構造に顕著な違いは認められなかった。現時点では、津波の影響は泥質堆積物の再懸濁とその堆積がもっとも顕著であると考えられる。仙台湾外側陸棚の堆積物には、地震/津波後に泥質タービダイトの形成が認められているので、陸棚域の泥の巻き上げで形成された泥水の一部は混濁流を形成し、沖合方向に移動したと考えられる。

キーワード: 津波, 海底堆積物, 仙台湾, 陸棚, 2011年東北地方太平洋沖地震津波

Keywords: tsunami, surface sediment, Sendai Bay, shelf, 2011 Tohoku earthquake tsunami